

令和4年度 第4回 京田辺市社会教育委員会議  
会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 京田辺市の社会教育について

資料の概要について、事務局より説明

- (委員) 社会教育は多岐に渡っているため、「学習機会の拡大」についてだけで協議するのは難しいのではないか。
- (委員長) 今の時点では、内容を絞らずに、様々なジャンルについて意見を出していき、その後、その内容をまとめていけばよい。
- (委員) 講座の中には、全回に参加しなければならないと制限があるものがあるし、また、講座によって担当部局が違い、南部まちづくりセンター等と連携しにくい状況にもなっている。制限とか枠とかを取り除き、いつでも、誰でも参加できるように見直しが必要ではないか。それが学習機会の拡大に繋がるのでは。
- (委員長) 部局間の連携と共に、市内の団体やグループとの連携も必要になる。小さな団体が実施する事業は周知範囲が狭いため、知らない市民もいる。それらをまとめて情報発信すれば、機会も広がるのではないか。
- (委員) 講座の開催場所が自宅から遠いと、参加できない場合がある。それぞれの地区で講座を開催することも機会の拡大に繋がるのでは。
- (委員) 講座等を受講しているのは、市内の一部の人たちであり、現役世代はほとんど参加していないので、その世代の意識の向上等、参加しやすい方法を検討すべきではないか。
- (委員) 地区の公民館を若い人が使っている時があるが、その世代と自治会事業と連携ができないかと考えている。また、市民同士による自主的な講座等を企画したいというニーズもある。このような連携や企画のためには、間に入って細かな事務も行えるコーディネーター役が必要になる。また、そのためには、学校等とも連携が必要ではないか。
- (委員) 市民の自主的な取組を先進的に行っている明石市のまちづくり協議会に視察にいった。行政も積極的に支援しており、全ての地区ではないが、コーディネーター役もいて、よい仕組みづくりができていた。
- (委員) 三山木地区でもまちづくり協議会ができたが、まだ具体的な取組がなく、参加者も何をしたらよいかわからない状態。行政等の支援を受けて組織されたのでは、参加者もあまり積極的な意識が感じられない。もっと、市民が自主的に動き出せるようにしないといけない。
- (委員) 最初は行政主導でも、活動が進むにつれて自主的な意識が出

てくるはず。全国的な事例でも、コーディネーター役がきちんとしているところが、成功しているように思う。

(委員) 新たにコーディネーター役を設置しなくてもよい場合もある。先日ある自治会の左義長に参加したが、そこでは、副会長がコーディネーター役となって多くの団体と連携して活気あるイベントとなっていた。また、甘南備山の初登山では多くの参加者が楽しんでおり、こういう事業を継続していくことが必要。

(委員) コーディネーターやリーダー的な人材が必要だが、なり手がいない。その課題解決の方法については議論を深めていくしかないが、まずはなにか取組をモデル的に行ってもよいのでは。

(委員) コーディネーター役というのは、ボランティアで行うのか、専任の職員が行うのかどちらの方がよいのか。

(事務局) 全くの無償のボランティアというのは難しいのではないかと考えている。

(委員) 地域行事に若い人たちが関わらないとか、イベント自体を知らないとかが問題だと思う。

(委員) SNS等のインターネットによる情報発信はもっと必要だと思う。

(委員長) ある場所に誰でも使用できるオープンスペースがあるが、そこでは通りすがりの人も参加できるような企画も行なわれており、さらに、その企画の参加者が、別の企画を立ち上げたりし、どんどん繋がりが広がっていった。そのようなことが京田辺市でもできればいい。

(副委員長) SNS等の活用による若者世代への情報発信も重要だが、高齢者層への情報発信も工夫が必要。広報紙等を全て読むことも高齢者にとっては大変な作業になってしまう。

(委員) 各員から意見が多くでいるが、これらを実現させることを考えていかなければならないのでは。

(委員長) 各委員から多くの意見を出してもらい、それらからテーマを絞って、具体的な政策等に繋げて行ければと考えている。教育に関することや趣味等から生まれる生きがいに関すること、子どもの貧困等地域での福祉のことなど、そういう課題に社会教育としてどういったことができるのか。

(委員) 高齢者がスマートフォン等で学習情報を得るために、行政の支援等を受けたりして、少しずつできるようになっているが、まだまだ難しいと思う。また、広報紙等も情報量が多くて、高齢者には把握しきれない。民生委員といった人々が対面で要望を聞き取り、その人にふさわしい情報を選んで提供する、ということが必要としている高齢者もいる。

(委員) インターネットの利用でも、世代によって利用しているアプリ等が違っており、また、広報紙のように紙が必要な人、対面での情報提供が必要な人など、様々な状況があるので、もっと多角的な周知方法をしていく必要がある。

(委員) 生涯学習だよりは、申込方法とかがわかりにくいという意見や、また、社会教育施設が小さいため、自主的な活動を広げられないという意見を聞いたことがある。市民の自主的な学習のことや、コーディネーターのこと等様々な方策と社会教育委員とは、どのように関わっていけばいいのか。多くの課題解決の

ためにも、先進事例の明石市のことをもっと知りたい。

(委員) 明石市の詳しい事例については、後日資料を用意する。行政からの支援を受けた専任者がコーディネートして、市民の自主的な取組が行われていた。また、明石市には生涯学習施設を含む大規模な複合施設があった。京田辺市の複合施設の状況はどうなっているのか。

(副委員長) 複合施設については、進展があった時点で、報告があるはず。

(委員) 学習情報の発信にインターネットを活用しているなら、講座の内容も動画配信すれば、参加できなかった人も観ることができる。権利の問題などがあるかもしれないが、実現すれば新たな機会の拡大に繋がる。

(委員長) インターネットの動画の中には生涯学習の教材としてよいものがたくさんある。

(副委員長) 今回出された意見について、今後はその意見を分類し、そのテーマごとにグループに分かれて協議できればと考えている。

#### 4 その他

- ・令和4年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

#### 5 閉会 副委員長あいさつ